

令和4年6月13日(月)

令和4年度第1回「横浜市地域公共交通会議」

次 第

議題

- ・令和4年度デマンド型交通実証実験（港南区永野・永谷地区）について

報告

- ・旭中央地区「四季めぐり号」の運行計画の変更について
- ・地域交通サポート事業について

◆ 配布資料

- ・委員名簿
- ・座席表
- ・議題資料

職 名	氏名
横浜市町内会連合会委員（青葉区連合自治会長会 会長）	関根 宏一
公募市民	倉重 郁雄
公募市民	佐藤 守
学識経験者 東京大学大学院 特任教授	中村 文彦
一般乗合旅客自動車運送事業者 （一般社団法人神奈川県バス協会 乗合部会長）	齋藤 謙司
一般乗用旅客自動車運送事業者 （一般社団法人神奈川県タクシー協会横浜支部 常任理事）	藤井 嘉一郎
一般社団法人神奈川県バス協会 理事長	八郷 大文
一般社団法人神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長	稲葉 弘行
神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 議長	穴戸 秀樹
神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 事務局長	小笠原 征夫
国土交通省関東運輸局自動車交通部 旅客第一課長	神宮 秀樹
国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	三橋 裕
神奈川県警察本部交通部 交通規制課長	大川 広
神奈川県県土整備局都市部 交通企画課長	近藤 修宏
横浜市都市整備局 都市交通部長	松井 恵太
（座長）横浜市道路局 計画調整部長	長谷川 秀

令和4年度第1回「横浜市地域公共交通会議」	
日 時	令和4年6月13日(月) 13時30分から14時40分まで
場 所	横浜市市庁舎18階みなと4. 5会議室
開催形態	公開(傍聴：3名)
議 題	・令和4年度デマンド型交通実証実験（港南区永野・永谷地区）について
報 告	・旭中央地区「四季めぐり号」の運行計画の変更について ・地域交通サポート事業について
議 事	(※本議事概要内では敬称略) (1) 令和4年度デマンド型交通実証実験（港南区永野・永谷地区）について ■神奈川県警察本部交通部 交通規制課長 ご意見 ①：乗降場所にはバス停ポール等は設置するのか。 ②：停留所の設置場所について、管轄する港南警察署と調整は行っているのか。 →◆事務局 回答 ①：バス停のポールは設置しないが、地先住民の了解がとれた私有地の壁やフェンス等にA3又はA4の掲示物を設置する予定である。 ②：港南警察署とは上永谷駅前を中心に停留所の設置場所について調整し、了解が取れている。 ■公募市民 ご意見 ③：高低差の大きい当地区内での交通手段導入は良い取組である。 ④：現在の町名に永野はないが、なぜ地区名を永野・永谷地区と呼んでいるのか。 ⑤：対象者は港南区永野・永谷地区内の住民のみなのか。 →◆事務局 回答 ④：かつては永野の地名が存在していた。当地区の町内会名である永野町内会と永谷町内会から、永野・永谷地区と呼んでいる。 ⑤：当地区はH30から地域交通サポート事業で活動していた経緯があることから、今回は当地区内の住民を利用対象者とする。 ■学識経験者 東京大学大学院 特任教授 ご意見

⑤：対象地区の選定経緯は理解できるが、本格実施のために必要な情報を得るという実証実験の目的を踏まえると、利用対象者を永野・永谷地区の住民に限定して良いのか。

→◆事務局 回答

⑤：まずは実験として利用対象者を永野・永谷地区の住民に限定し、実証実験の結果を踏まえ今後の課題として検討する。

→■学識経験者 東京大学大学院 特任教授 ご意見

⑤：対象地区外の需要が分からないことについて、実証実験の検証の際にどのように対応するか考えておいてほしい。

■学識経験者 東京大学大学院 特任教授 ご意見

⑥：アンケート結果の見せ方や実証実験の目的の説明に工夫が必要であり、アンケートのクロス集計を活用すべきである。クロス集計の実施により、「現在の外出に困っているか」「どのように困っているか」「どのように望んでいるか」を分析し、それに対して実証実験でどのような結果だったか検証すれば、改善策についてより良い議論をすることができる。

→◆事務局 回答

⑥：アンケートを実施した中で、クロス集計を活用した部分を紹介する。クロス集計では、外出について「現在困っている」と回答した人のうち、「デマンド型交通を利用する又は分からない」と回答した人が8割程度存在する。また、外出について「将来困りそう」と回答した人のうち、「デマンド型交通を利用する又は分からない」と回答した人が6割程度存在する。これらの人については利用を見込んでいる。

■公募市民 ご意見

⑦：アンケートについて、外出目的の回答結果が載っていないが、確認しているのか。

⑧：実証実験の内容は元より、デマンド型交通という言葉自体が住民には馴染みのない言葉であるため、住民への丁寧な周知が必要である。

⑨：システムを用いた予約の流れについて具体的に知りたい。希望の日時に利用するためには、いつまでに予約をする必要があるのか、など。

→◆事務局 回答

⑦：地域で実施したアンケートであり、目的を限定して聞くのは適切ではないという意見が出たため、移動目的の設問は省略している。

⑧：今回いただいたご意見を参考に、説明会にて周知を行う。説明会は9、10月頃の開催を想定している。

⑨：資料により説明。具体的な予約の流れについては、現在調整中である。なお、確定次第、住民には説明会にて周知を行う。

■一般社団法人神奈川県タクシー協会横浜支部 常任理事 ご意見

⑩：既存事業への影響を知りたい。そのために、「現在外出に困っていない」と回答した

人に、困っていない理由や外出状況（「タクシーを呼べばすぐに来るため」や「乗継なしで上大岡まで直行する」等）を分析する等の検証を今後してほしい。

- ⑪：乗り合わせ人数を検証し、その人数が少なければセダン型の検討も視野に入れられると良い。

→◆事務局 回答

- ⑩・⑪：ご意見として参考にさせていただきます。

■横浜市町内会連合会委員 ご意見

- ⑫：高齢者だけでなく、学生等の若年層まで対象年齢を拡張し、年齢層別の移動目的を分析してほしい。あらゆる世代の人が生活しやすいまちの実現のためにも、詳細なデータ分析が必要である。

→◆事務局 回答

- ⑫：ご意見として参考にさせていただきます。

■公募市民 ご意見

- ⑬：実証実験実施の際には、各世帯にデマンド型交通の利用方法を案内したチラシを配布してほしい。

→◆事務局 回答

- ⑬：今後、検討する。

■国土交通省関東運輸局自動車交通部 旅客第一課長 ご意見

- ⑭：今後、運行期間やバス停の数を変更することがあっても、微修正にとどまると考えて良いか。

→◆事務局 回答

- ⑭：特に変更する予定はない。

(2) 旭中央地区「四季めぐり号」の運行計画の変更について

■公募市民 ご意見

- ①：現在の利用者の決済方法別割合は。
②：支払方法は簡単な方が良い。維持費がかかるのは承知しているが、既に広く浸透している交通系 IC を使用できれば非常に喜ばしい。

→◆事務局 回答

- ①：現金が 7 割、回数券が 3 割、QR 決済は 1 人/日程度。
②：ご意見として参考にさせていただきます。

(3) 「ワゴン型車両運行地区」の標準的なバス情報フォーマットの公表について

て

■学識経験者 東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ①：運輸事業については、あらゆる面で電子化が進んでいない。運輸事業や公共交通に係る様々なデータが共通のフォーマットで整理されると、現状を効率的に確認でき、議論に多くの時間をかけることができる。ぜひフォーマットの整理を進めてほしい。

以上